

月刊 キリスト教 保育絵本

こどものせかい

2026年4月号

「うまれた うまれた」

糟谷奈美・絵と文

内 容 の 紹 介

幼 稚 園 ・ 保 育 園 用

この内容紹介は、キリスト教保育にもとづいて絵本の「みきかせ」をなさる場合の一例として用意いたしました。従来の「読み聞かせ」にかわって「観(み)きかせ」という言葉を使いますのは、絵本はまずじゅうぶんに絵を観て味わうことからはじめ、そのあとゆっくりと文を読むことにより、子どもたちのこころの豊かなひろがりを持ちたいからです。美しい絵と、心あたたまるお話を中心とする絵本のなかで、しばしば神さまに出会えるようにと願っています。展開については、各園の環境に応じて適宜ご利用くださり、自由な対話を楽しんでください。

お知らせ

- * こどものせかい 5月号は「いつもいっしょのマリアさま」(牧村慶子・絵と文)です。お楽しみに。(244×246 mmサイズ)
- * 観きかせガイド&ダウンロードコンテンツ

閲覧用パスワード **shikosha**

♪至光社のホームページ♪

新しくなりました

<http://www.shiko-sha.co.jp>

こどものせかい・至光社

東京都渋谷区広尾 2-10-12 〒150-0012

TEL 03(3400)7151
FAX 03(3400)7294

土・日曜・祝日は休

こどものせかい4月号

「うまれた うまれた」

糟谷奈美・絵と文

<全体のねらい>

春は、さまざまな出会いがある季節。園では、卒園・入園・進級など、子どもたちが新しい一歩を踏み出す季節です。

2026年度はじまりの4月号は、希望と不安でいっぱいの新しい生活をはじめる子どもたちとご家族に届けたい一冊です。

生まれたばかりの、小鳥のぴっぴ。頭の上には、まだふわふわの産毛が生えていて、自分でもまだまだ赤ちゃんだと思っています。でも毎日毎日、羽を動かして飛ぶ練習をし、ある日、おひさまに勇気をもらって外の世界へ飛び立ちます。

子どもたちも、赤ちゃんから幼児へと日々成長していくなかで、少しずつ出来ることが増え、挑戦したいことが増えていきます。自分はまだ小さいとわかっているけれど、手伝ってもらわなければ出来なかったことが、自分ひとりの力で出来たときの喜びは、本当におおきな自信となっていきます。

園での生活は、子どもたちにとって初めてのことばかりでしょう。小鳥のぴっぴが、いろいろな場所でたくさんの出会いを経験するように、先生や友だち、生活や遊びのなかで出会うさまざまなこと、時には、悲しいことや辛いことを経験しながら、心もからだも豊かに成長していきます。

片柳神父は、子どもたちが新しい生活をはじめる時に大切なのは「自分への信頼」「仲間たちへの信頼」「世界への信頼」の3つの信頼だと言うとおっしゃっています。そして、その信頼は、安心できる愛につつまれて、生まれるのです。

小鳥のぴっぴが、初めての出会いで感じたものは、「むねが ぽかぽかする」と表現されています。その胸に感じたあたたかさは、「やさしさ」「愛」といえるでしょう。この絵本のどの場面からも、あたたかいぬくもりが伝わってきます。

作者は“この絵本は空からの光に見守られながら、優しさ、愛が、命に含まれ、循環するお話です”（ちいさなひろば「Editor's Room」より） “私は命には元々、愛が含まれているのではないかと思います。優しさが遠い昔から繋がり、廻り、私の命があると思います”（ちいさなひろば「絵本作りの仕事場より」）とおっしゃっています。

やさしさ・愛から、命は生まれる。大きくなったぴっぴは、なかよしの鳥と家族になり、たまごを生みます。そして、ぴっぴは、たまごに語りかけます。「たくさん　たくさん　はじめてがあるよ　いつも　そらから　みていてくれるよ　みんな　ぽかぽか　あったかいよ」—その言葉の深い想いを、しっかりと子どもたちの心へ伝えたい。子どもたちが、いつもあたたかい見守りの中で、光の中で、たくさんの人や物事に会い、やさしさと愛を育んでゆくことができますように。

どうぞ、園で、ご家庭で、子どもたちひとりひとりに語りかけ、ゆっくりと絵を見ながら、ぴっぴと一緒にあたたかい時を過ごしていただけたらと思います。

*** WEB「ちいさなひろば」の「片柳弘史神父とよむ こどものせかい」をぜひ合わせてご覧ください。（至光社 HP <https://www.shiko-sha.co.jp>）**

＜展開＞

* うまれた うまれた

たまごから、小さな鳥の赤ちゃんが生まれましたよ。まだ目も開いていないし、ふわふわの産毛が頭の上にもからだにも、たくさんついていますね。

名前は「ぴっぴ」というのですって。何か言っていますよ。「あかるいなあ　からだが　ぽかぽか　あったかいなあ」ですって。たまごから生まれて、外の世界は明るくて暖かかったのでしょうかね。お母さん鳥の羽につつまれていたのかな。これは、ぴっぴが生まれてはじめて感じたことなのですよ。

みんなは、生まれた時のことを覚えているかしら？

* ぴっぴは ばたばた ばたばた

ぴっぴは、毎日毎日羽を動かしています。何をするためかな？ そう、空を飛ぶ練習をしているのですね。巣の外には、飛んでいる鳥が見えるでしょう。ぴっぴのご飯を探している、お父さんとお母さんでしょうか。羽の色が似ていますね。

ぴっぴを、よく見てみましょう。生まれた時よりも、産毛は少なくなりましたね。頭の上にすこし残っているくらいです。大きくなったのですね。だから、もう飛べるかなって思って、巣の外へ出てみることにしました。

* そとには おひさまが いました

外には、おおきなおひさまがいました。ぴっぴは、おひさまに自分はまだ赤ちゃんだけど、もう空を飛べるかなって聞いてみました。ちょっと不安で心配だから、誰かに聞いてみたかったのでしょうね。自分は大きくなったけど、でもまだ赤ちゃんだし…って思っているのね。みんなにも、このぴっぴの気持ちがわかるかな？

おひさまは、ぴっぴに何て言いましたか？ そう、羽を広げて見せてごらんって言いましたよ。ぴっぴの羽は、どうなっているのでしょうか。

* ぴっぴが はねを ひろげると

ぴっぴが羽を広げると…わあ！なんてきれいなのでしょうか。おひさまの光で、きらきらと光っています。ぴっぴの羽は、青に緑に黄色にピンクにオレンジ色…いろいろな色に輝いています。

「わたしの はね きらきら きらきら とっても すてき」って、ぴっぴは、うれしくなりました。なんだか力も湧いてきたのですって。そして、元気よく飛び立ちました。おひさまが“だいじょうぶだよ”って、ぴっぴの背中を押してくれたのですね。

* 「とべたよ とべたよ」

ぴっぴは、初めて空を飛びました。上手に飛んでいますね。ほら、ぴっぴを見てください。頭の産毛がとれていますよ。そう、もう赤ちゃんじゃありませんね。

下には何が見えますか？ 丘の野原で、たくさんの子どもたちが遊んでいます。ぴっぴに手を振っている子もいますね。他には何が見えますか？ いろいろな木や花、車やお家にお店、青い海の向こうには灯台も見えますね。ぴっぴは、これからどこへ行くのでしょうか。

* ぴっぴは やまに いきました

ぴっぴは山に行きました。山には、たくさんの実がなっていました。誰がいますか？ うさぎ、りす、くま、たぬき、ねずみもいますよ。青い鳥が、ぴっぴに赤い木の実を持ってきてくれました。

おいしい木の実をみんなが教えてくれて、みんなで一緒に食べると、また、ぴっぴの胸はぽかぽかしたのですって。ぴっぴは、今どんな気持ちなのでしょう。

* ぴっぴは はじめて うみのうえを とびました

ぴっぴは、海の上も飛びました。海は遠くまでひろがっていて、ぴっぴはたくさん飛んだのですって。だから、とても疲れてしまいました。でも、海には木がなくて休めるところがありません。ぴっぴは泳げないので、飛ぶのをやめることはできません。

困っていると、海に浮かぶちいさな船を見つけました。すると、船の船長さんが乗っていいよとやさしく声をかけてくれたのです。ぴっぴは、ほっとしました。そして、また胸がぽかぽかしました。

舟にちょこんと乗っている、ぴっぴ。船長さんとどんなお話をしているのかな？

* ぴっぴは まちに いきました

船で休んで元気を取り戻したぴっぴは、今度は町へやってきました。家がたくさんあって、人もたくさんいました。窓が開いているお部屋から、子どもが「あそびましょ」って声をかけてくれました。

何をして遊んだのでしょうか。絵本を読んでもらったのですって。ぴっぴは絵本を見るのは、初めてでした。絵本を読んでもらって、ぴっぴは、また胸がぼかぼかしました。どんな気持ちだったでしょう。

みんなだったら、ぴっぴに、どんな絵本を読んでもらえますか？

* しろいやまには ゆきが ふっていました

町の子どもと「また遊ぼうね」って約束して、ぴっぴは遠くの白い山へやってきました。山には雪が降っています。白い山は、雪が積もっている山だったのですね。ぴっぴは、初めて雪を見ました。空からふわりふわりと降ってくる雪は、とてもきれいで不思議で、楽しくてたまりません。時間がたつのも忘れて遊んでいて気がつくと、寒くなっていました。もうお家へ帰ろうと思ったら…大変です！ どっちから来たのかわからなくなってしまいました。山の中は雪におおわれた木があるばかりで、どこを見ても同じように見えます。

さあ、ぴっぴは、どうなってしまおうのでしょうか。ちゃんとお家に帰れるかしら？

* ぴっぴは かえりみちが わからなくなっていました

だんだん暗くなってきて、とうとう夜になってしまいました。雪もまだ降っています。迷子になってしまったぴっぴは、どんな気持ちでしょう。どこかに誰かいないかと呼んでみても、返事はありません。ひとりぼっちになってしまったぴっぴは、さびしくて不安で、ぽろぽろと涙が落ちました。

するとその時、だれかの声がしたのですって。「ひとりぼっちではありませんよわたしが いますよ」って。誰の声でしょう？ 空が明るく光っていますよ。

* それは おほしさまのこえでした

おおきなお星さまです。お星さまに、ぴっぴの声が届いたのです。「わたしにはちゃんと みんなのこえが きこえています」ですって。お星さまはいつも空の上から、みんなのことを見ていて、みんなの声を聞いているのですね。ぴっぴは、お星さまのその言葉を聞いて、どんな気持ちになったでしょう。

ぴっぴは、お星さまの光の中を飛んでお家へ帰っていきます。ぴっぴは、どんな顔をしていますか？

* ぴっぴは おうちに かえることができました

お星さまに連れられて、ぴっぴはお家に帰ってきました。よかったですね。

ぴっぴはお星さまに何て言ったでしょう。どんな気持ちでしょう。空の高いところへ戻ったお星さまを、ぴっぴはいつまでも見ていました。それから、ぐっすりと眠ったでしょうね。どんな夢を見たでしょう。

それから、毎日毎日、ぴっぴはいろいろなところへ行きました。初めて見るもの、聞くものがたくさんありました。そして、仲良しのくっくと、一緒に住むお家をつかったのですって。くっくが誰だかわかりますか？ そう、前に出会った、あの青い鳥さんですよ。（p 10－11 で木の実をくわえている青い鳥）

* しずかなよるです

ここは、ぴっぴとくっくのお家です。窓から、お月さまがのぞいています。ぴっぴが大切そうに抱いているのは、何でしょう？ そう、たまごです。ぴっぴは、もうすぐお母さんになるのですね。ぴっぴは、たまごに話しかけています。「たくさん たくさん はじめてがあるよ いつも そらから みていてくれるよ みんな ぽかぽか あったかいよ」って。

おひさまに勇気をもらって、ぴっぴが初めて空を飛んだ時、たくさんものに出会いました。山の動物たち、海の船長さん、町の子ども…みんなとてもやさしくて、

ぴっぴの胸はぽかぽかしました。そして、不安だった時、空でお星さまがいつも見ていてくれることを知りました。ぴっぴは、そのことをずっと忘れないでいたのです。そして、それを大切な赤ちゃんに伝えたいって思ったのね。

もうすぐ生まれてくる、赤ちゃん。絵本の最初のページ、ぴっぴが生まれた時に戻ってみましょう。こうして、ずっとずっと、続けていきます。